

平成26年10月31日

各位

会社名 ヤマハ株式会社
代表者 代表取締役社長 中田卓也
(コード番号：7951 東証第1部)

**2015年3月期第2四半期(累計)連結業績の概要と
通期連結業績予想について**

□ 第2四半期累計業績の概要

— 対前年同期増収、営業・経常増益 —

2015年3月期第2四半期累計の売上高は、対前年同期で、為替による51億円の増収影響もあり、87億円(4.4%)増加の2,064億円となりました。セグメント別には、電子部品事業が減収となったものの、楽器事業、音響機器事業およびその他の事業は増収となりました。

営業利益は対前年同期で14億円(10.3%)増加の151億円、経常利益は16億円(11.8%)増加の151億円といずれも増益でしたが、四半期純利益は、前年に投資有価証券売却益などの計上があったことから17億円(13.7%)減少の108億円となりました。

<事業セグメント別の売上高・営業損益の状況> ()内は原則として前年同期比増減率

・ 楽器事業 売上高 1,361億円(前年同期比 7.2%増) 営業利益 141億円(前年同期比 47.8%増)

ピアノは、消費増税による影響などにより国内での販売が低調でしたが、北米および中国で売上げを伸ばし、全体で増収となりました。電子楽器は、デジタルピアノが好調に推移したほか、10年ぶりに新製品を発売したエレクトーンが売上げを伸ばしました。管楽器は、北米での販売が好調でした。音楽教室は、生徒募集での苦戦が継続しました。

セグメント全体の売上高は、前年同期に比べ、92億円(7.2%)増加の1,361億円となりました。

営業利益は、46億円(47.8%)増加の141億円でした。

・ 音響機器事業 売上高 508億円(前年同期比 4.2%増) 営業利益 20億円(前年同期比 25.3%減)

オーディオ機器は、全地域で販売が低迷しました。PA機器は、新製品の導入により欧州で堅調に推移し増収となり、IGT(Information and Communication Technology)機器も売上げを伸ばしました。一方、業務用通信カラオケ機器は減収となりました。

セグメント全体の売上高は、前年同期に比べ、20億円(4.2%)増加の508億円となりました。

営業利益は、7億円(25.3%)減少の20億円でした。

・ 電子部品事業 売上高 75億円(前年同期比 25.9%減) 営業損失 9億円(前年同期 12億円の営業利益)

半導体は、事業環境の厳しさが増し、主にスマートフォン向けの地磁気センサー(電子コンパス)および音声処理用のコーデックの販売が振るわず、減収となりました。

セグメント全体の売上高は、前年同期に比べ、26億円(25.9%)減少の75億円となりました。

減収に伴い営業損失は、9億円(前年同期は12億円の営業利益)となりました。

・**その他の事業 売上高 120 億円（前年同期比 1.3%増） 営業損失 1 億円（前年同期 3 億円の営業利益）**

自動車用内装部品は、若干の減収となりました。FA 機器は、受注が回復傾向にあり、増収となりました。ゴルフ用品は、新製品の販売が好調に推移し、売上げを伸ばしました。リゾート事業は、減収となりました。

セグメント全体の売上高は、前年同期に比べ、2 億円（1.3%）増加の 120 億円となりました。

営業損失は、1 億円（前年同期は 3 億円の営業利益）でした。

□ **2015 年 3 月期通期連結業績予想について**

— 売上高、営業利益、経常利益は据え置き、当期純利益を下方修正 —

2015 年 3 月期通期連結業績予想は、7 月 31 日公表時には、売上高 4,300 億円（前期比 4.8%増）、営業利益 290 億円（前期比 11.6%増）、経常利益 280 億円（前期比 7.1%増）、当期純利益 210 億円（前期比 8.3%減）としておりました。

今回の業績予想では、売上高、営業利益、経常利益を据え置きといたします。一方、半導体生産子会社の譲渡に関する基本合意の締結に伴い見込まれる 18 億円の構造改革費用を特別損失として織り込んだこと等により、当期純利益は 190 億円（前期比 17.0%減）に下方修正いたします。

尚、本予想における第 3 四半期以降の想定為替レートは、対 US ドル 105 円（前回予想時 100 円）、対ユーロ 135 円（前回予想から変更なし）としております。

注) 文章中の売上高、損益の数値は、原則として億円未満四捨五入で記載しております。

以上

2015年3月期第2四半期業績資料

ヤマハ株式会社
2014年10月31日

	前年第2四半期実績 (13/4~13/9)	当第2四半期実績 (14/4~14/9)	前期実績	当期予想	前回当期予想 (14/07/31発表)
	14年3月期	15年3月期	14年3月期	15年3月期	15年3月期
売上高	1,977億円	2,064億円	4,103億円	4,300億円	4,300億円
国内売上高	823億円 (41.6%)	785億円 (38.0%)	1,679億円 (40.9%)	1,648億円 (38.3%)	1,672億円 (38.9%)
海外売上高	1,154億円 (58.4%)	1,279億円 (62.0%)	2,424億円 (59.1%)	2,652億円 (61.7%)	2,628億円 (61.1%)
営業利益	137億円 (6.9%)	151億円 (7.3%)	260億円 (6.3%)	290億円 (6.7%)	290億円 (6.7%)
経常利益	135億円 (6.8%)	151億円 (7.3%)	261億円 (6.4%)	280億円 (6.5%)	280億円 (6.5%)
当期利益	125億円 (6.3%)	108億円 (5.2%)	229億円 (5.6%)	190億円 (4.4%)	210億円 (4.9%)
為替レート(決済レート)	98円/US\$ 125円/EUR	103円/US\$ 140円/EUR	100円/US\$ 129円/EUR	104円/US\$ ^(*) 138円/EUR	101円/US\$ 136円/EUR
ROE ^(*)	10.6%	7.6%	9.2%	6.6%	7.5%
ROA ^(*)	6.1%	4.6%	5.5%	4.2%	4.7%
1株当たり利益	64.6円	55.7円	118.3円	98.1円	108.5円
設備投資 (減価償却費)	49億円 (60億円)	67億円 (59億円)	108億円 (128億円)	136億円 (126億円)	136億円 (131億円)
研究開発費	107億円	121億円	226億円	253億円	253億円
(キャッシュフロー)					
営業活動	43億円	65億円	332億円	335億円	335億円
投資活動	▲25億円	▲71億円	▲230億円	▲126億円	▲126億円
フリーキャッシュフロー	18億円	▲6億円	103億円	209億円	209億円
期末在庫高	905億円	947億円	827億円	821億円	825億円
(要員数)					
国内	6,991人	6,719人	6,830人	6,600人	6,700人
海外	12,901人	13,438人	13,021人	13,500人	13,600人
正社員数 ^(*) (連結範囲変動による増減)	19,892人 (46人)	20,157人 (266人)	19,851人 (46人)	20,100人 (270人)	20,300人 (290人)
正社員外要員(期中平均)	8,604人	7,772人	7,863人	7,700人	7,200人
(事業別売上高)					
楽器	1,269億円 (64.2%)	1,361億円 (65.9%)	2,623億円 (63.9%)	2,775億円 (64.5%)	2,745億円 (63.8%)
音響機器	487億円 (24.7%)	508億円 (24.6%)	1,055億円 (25.7%)	1,120億円 (26.1%)	1,120億円 (26.1%)
電子部品	101億円 (5.1%)	75億円 (3.7%)	188億円 (4.6%)	145億円 (3.4%)	175億円 (4.1%)
その他	119億円 (6.0%)	120億円 (5.8%)	237億円 (5.8%)	260億円 (6.0%)	260億円 (6.0%)
(事業別営業利益)					
楽器	96億円	141億円	197億円	240億円	225億円
音響機器	26億円	20億円	59億円	60億円	60億円
電子部品	12億円	▲9億円	8億円	▲15億円	0億円
その他	3億円	▲1億円	▲4億円	5億円	5億円

(単独の状況)

売上高	1,197億円	1,258億円	2,237億円
営業利益	70億円 (5.8%)	76億円 (6.0%)	81億円 (3.6%)
経常利益	127億円 (10.6%)	145億円 (11.5%)	155億円 (6.9%)
当期利益	140億円 (11.7%)	138億円 (10.9%)	177億円 (7.9%)

* 1, 2 ROE・ROAは年換算値

* 3 要員数=期末社員在籍数

* 4 下期為替レート US\$=105円、EUR=135円

連結業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の連結業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。